角事例の中から、

食物アレルギーによる「30秒評価」「5分以内13項目評価の症状」を理解するとともに、迅速な判断と対応を身につけるために校内で想定訓練を実施する。実施にあたってはABCそれぞれの訓練テーマの中から、どこに焦点を当てる訓練かを確認し、学校の実態に応じた想定訓練案を~~用意~~作成し、ロールプレイ形式で行うと効果的である。訓練シナリオ作成に当たっては、以下のフロー図を参考にする。

想定訓練のフロー

**校内研修用**

**C　途切れない見守り例**

B例やC例で始まっても症状の急変で校内緊急体制に移行する。児童役の症状から観察力や判断力が評価できる訓練案を想定

**事故発生**

**B　13項目症状チェック例**

**A　校内緊急体制例**

□　ぐったり

□　意識もうろう

□　尿や便を漏らす

□　脈を触れにくい

□　唇や爪が青白い

□　のどや胸がしめつけられる

□　声がかすれる

□　犬が吠えるような咳

□　息がしにくい

□　持続する強い咳き込み

□　ゼーゼーする呼吸

□　持続する強いおなかの痛み

　　（我慢できない）

□　繰り返し吐き続ける

**発見・観察**

応援要請

応援要請

エピペン®

救急車要請

心肺蘇生（AED）

校内緊急体制

5分

60分

訓練では15分程度

30秒

参加者は訓練振り返りシートを活用し、必要な項目や感想を記入し、グループや全体で振り返りを行って、課題を明確にし、生かす。

**訓練終了→　振り返り・評価**

**応援要請**

**聞き取りを優先せず、「症状の有無の判断」が優先。**

**30秒評価（顔色が悪い　呼吸が苦しい　意識がおかしい）**

30秒評価の症状がなくても13項目症状が出ていることもある。30秒評価・13項目症状のない子が無症状とは限らない。

5分以内13項目症状チェック

応援要請は~~職員~~校内連絡体制やコールの有無等、学校の条件に応じて具体的な連絡方法を想定する。

**様式１９**

校内緊急体制から救急車要請や心肺蘇生を含めた訓練は、組織対応としてアレルギー以外にも応用ができる。

職員が「30秒評価」や「13項目症状」を観察し、どう判断するかが評価ポイント。学校の実態に応じて、研修計画立案時に訓練の時期を決めておき児童役は、症状がわかるようなセリフを作成するなど工

夫を行う。

経過観察（5分ごとに再評価）

1時間経過して症状なければ通常の学校生活へ

経過観察

（5分ごとに再評価）